

● 地域提案型

平成21年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	インドネシア
2. 事業名	バブア州水稲種子生産技術確立事業
3. 事業の背景と必要性	<p>インドネシア共和国政府は、主食である米の生産に力を入れており、バブア州は、南西部（メラウケ地域）を中心に広大な耕作可能地域があるため、今後、米の生産拡大を進めることが可能である。</p> <p>こうした中、バブア州では、奨励品種を定め、地域特性を活かした米の増産を図ることとしているが、奨励品種栽培の基盤となる種子生産技術が未確立となっており、種子生産に適した栽培法、異品種が混ざらない管理法、種子選別法などの技術を確立することが急務となっている。</p> <p>平成22年1月に県が独自に同州で行った調査においても、州政府などから水稲種子生産技術に関する研修の要望があった。</p>
4. 事業の目的	バブア州の農業技術者・水稲生産者内で、奨励品種栽培に必要な技術（種子生産に適した栽培法、異品種が混ざらない管理法、種子選別法などの技術）が活用される。
5. 対象地域	インドネシア共和国バブア州
6. 受益者層	バブア州民（約250万人）
7. 活動及び期待される成果	<p>【活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> バブア州農業園芸局の職員を毎年3名程度、約50日間山形県農業総合研究センターで研修する。 <ul style="list-style-type: none"> 平成22年度：品種間の特性の違いと見分け方を理解するため、水稲種子生産圃場における異品種除去技術の研修を実施する。 平成23年度：種子用水稲の種まきから田植えまでの技術習得のため、種子消毒、各品種の隔離方法、苗管理方法の研修を実施する。 平成24年度：種子生産圃場で収穫する種籾の選別方法、収穫に係る農業機械の構造や操作方法、および種子検査方法の研修を実施する。 研修を受けた農業園芸局の研修員が、身につけた技術をバブア州の水稲生産者に伝達する。 山形大学農学部や県立置賜農業高校等を訪問して、農業分野を学ぶ学生や生徒との交流を行う。 <p>【期待される成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> バブア州農業園芸局の職員の水稲種子生産技術およびその指導技術が向上する。 バブア州の水稲生産者の技術水準が向上する。 姉妹都市である、山形県とバブア州の国際交流が促進される。 水稲種子生産技術の普及によるバブア州での米の生産拡大を通じ、地域住民の所得水準および生活水準の向上に資する。
8. 実施期間	平成22年～平成24年
9. 事業の実施体制	山形県農業研究センターでバブア州政府職員の研修を実施する。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	山形県（山形県）
2. 対象国との関係、協力実績	<p>平成6年から姉妹県州を締結し交流を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外技術研修員招致（農業・日本語・保健医療分野） 35名 自治体研修員招致 7名 日本語指導者育成事業（高等学校日本語教師の招聘） 3名 地域保健向上協力事業（JICA草の根技術協力事業） 保健関係研修員の受け入れ 6名